

JR岐阜駅の界限

先にレポートした「リニア・シンポジウム」の前に、岐阜駅周辺を歩いた。写真には「岐阜シティタワー43」「スカイウイング37」という2つの超高層ビルが写っている。前者は高さ163m、43階建ての複合ビルで2007年に開業。43階には「展望台」があり、数年前に上ったとき岐阜の街並みや長良川、金華山を眺めることができた。後者は初めて見るビルであり、駅前再開発により建設された。5階から37階はマンション。最近の「都心回帰」として報道されたのを覚えている。



岐阜駅前には「繊維問屋街」が立ち並んでいる。朝早かったので、店は閉まっていたが、地下道に問屋街の歴史が展示されていた。戦後の復興から高度成長の頃は、問屋街も活気に満ちていた。確か郡上高校時代に、母と一緒に買い物に来た記憶がかすかに残る。2012年開業の「スカイウイング37」も、低迷する繊維問屋街「再生」に向けた再開発プロジェクトである。



JR岐阜駅から続く「ハートフルスクエアG」2階に、岐阜市平和資料室があった。シンポジウムまで時間があつたので、展示をじっくり見ることができた。展示室奥の岐阜空襲パノラマ写真に注目した。説明には「終戦後の岐阜市の繁華街の風景です。当時の丸物百貨店（今は中日ビル）の屋上から、西の方角を撮影。手前が柳ヶ瀬で、左の丸い建物は「岐阜劇場」（今は高島屋）です。にぎやかな街がひと晩で、地平線が見渡せるほどの焼け野原になりました」と。



岐阜空襲は1945（昭和20年）7月9日、深夜11時34分から2時間近く続いた。米航空軍第21爆撃機集団の129機による。写真にもある「E46集束焼夷爆弾」2387発、「M47焼夷爆弾」1万2221発が投下された。市街地の岐阜駅や商店、住宅、工場などが被災したという。

その頃、母は長女「かず子」を連れて岐阜郊外に疎開していた。当時のことをもっと聞いておけば良かったと思う。「かず子」は空襲から2ヶ月余り後に事故で亡くなった。母は復員した父にこの「悲しい出来事」を泣きながら伝えたという。父は「かず子」の誕生を見ることなく、戦地に赴いていた。

(2016年6月17日)